

(日光のラジオ情報番組)を



市は、レディオ・ベリー（エフエム栃木）で、毎週木曜
日午後3時から、日光のさまざまな情報をお伝えするラジ
オ番組「Nikko Wave」を放送しています。
Nikko Waveは、観光情報や各種イベントの紹介
1週間の日光の出来事を振り返るニュースなどの他、市
内の商店や飲食店などからの生レポート、体験などを交え
た、盛りだくさんの内容をお送りしています。
番組は、レディオ・ベリーの女性スタッフが中心となっ
て制作しています。ぜひ、日光の旬な情報を聴いてくださ
い。
※番組に、日光に関する感想やご意見をお寄せいただいた
方の中から、抽選で番組ステッカー（非売品）などをプレ
ゼントしています。



レディオ・ベリースタジオでの番組放送風景

番組ステッカー
(非売品)

- ▶番組名：Nikko Wave(ニッコウ ウェーブ)
- ▶放送局：レディオ・ベリー(エフエム栃木)
- ▶放送日：毎週木曜日
- ▶放送時間：午後3時～3時54分
- ▶周波数：76.4FM

番組制作スタッフに インタビュー



パーソナリティ：藤井 裕子さん
(ニックネーム：フジコ)

日光の
さまざま
な情報を
皆さんに
伝えられ
るように
日々努力
していま
す。
番組を
通して、多くの人たちと交流を深め
ることができ、この仕事をしています。
本当に良かったと思います。
これからも日光の魅力がたくさん
発信していきたいですね。



リポーター：小林 千恵さん
(ニックネーム：こぼち)

ラジオ
のリポー
トは、映
像が無い
ので、そ
の場の雰
囲気を伝
えるのが
とても難
しいです。
単なるイベントの告知で終わるの
ではなく、皆さんに臨場感が伝わる
放送ができるよう頑張っています。
放送を聞いて、「楽しそう」と言っ
てもらえるのがとてもうれしいです。



ディレクター：目加田 友子さん

情報盛りだくさんの日光市は、全
国ネットを含めた多くの放送媒体で
常に取り上げられています。
そのような中、あえてローカルな
県内で日光市専門番組をやっている
ことに意義があると思っています。

この番組
が多くの
皆さんの
交流の場
となるよ
う、愛さ
れる番組
づくりを
していきたいです。

「まちづくり基本条例」を知ろう！

くわしくは 総合政策課 政策調整係 ☎(21)5131

3回目の今回は、市が行ってい
る条例の普及啓発事業についてお
知らせします。
まちづくり基本条例では、特に
日光市の将来を担う若者のため、
20歳未満の青少年が、それぞれの
年齢にふさわしいまちづくりに参
画する権利を、別に定めています。
そして条例を知ってもらい、まち
づくり活動への理解を深めてもら
うため、次の事業を行っています。



平成21年度から日光明峰高校・
今市高校・今市工業高校の3校の
生徒を、また平成23年度からは、
市内に住む鹿沼高校の生徒を加え
た4校の生徒を対象に、受講生を
募ってまちづくりアカデミーを開
催しています。宇都宮大学教授に
よる基調講演やグループ討論など、
高校生の目線でまちづくりを考え、
学校ごとに「自分たちが出来るま
ちづくり」をテーマとした企画発
表などを行っています。

実際に取り組んでいます。
日光明峰高校は、毎年協力して
いるJR東日本の「駅からハイキ
ング」の中で、おもてなしの充実
を目標に、卓上カレンダーや箸置
きなどを、参加者への土産品とし
て自分たちで作製。多くの参加者
に市の魅力を発信しました。
また今市高校と今市工業高校は
2校が連携し、高校生が選ぶ市内
おすすめスポットのパンフレット
を作製。パンフレットホルダーに
も、工業高校ならではの技術を生
かしています。

平成24年度は、アカデミーで企
画した事業について、市内3校が

◆次回は、協働のまちづくりを推
進するための指針を紹介します。

ごみを減らそう!!



市がごみを処理す
る際には、費用や時
間の負担があるだけ
でなく、排出される
二酸化炭素によって
環境への負荷もかか
ります。ごみの量が
多くなれば、それだ
け負担も大きくなり、
二酸化炭素の排出量も増えてしま
います。
限りある資源を有効に活用し、自
然環境を守るためには、ごみを減ら
すことが必要です。

ごみ減量の目標

市は、平成27年度に市民一人が1
日に排出するごみの量を、1,08
0グラムとする計画を立てています。
平成22年度の排出量は1,191
グラムで、県内の平均を上回ってい
ます。平成23年度は1,172グラ
ムで前年と比較して19グラム減少し
ましたが、平成27年度の目標まで、
あと92グラムの減量が必要です。

なお他市町では、ごみ受け入れの
有料化(有料の指定ごみ袋など)を

ごみを減らすには

ごみの減量に最も効果的なのは、
生ごみの水切りです。生ごみの半分
は水分ですので、水をよく切れば大
幅に減量することができます。
また、生ごみ処理機を利用すると、
生ごみを堆肥にしたり、乾燥させて
量や重さを減らしたりすることがで
きます。生ごみ処理機購入の補助制
度がありますので、ぜひご利用くだ
さい。他にも、過剰包装やレジ袋を
断る、必要以上に物を買わないなど、
一人一人の取り組みがごみの減量に
つながります。

今日からあなたも、ごみの減量を
意識して生活しませんか。

くわしくは
廃棄物対策課 ☎(21)5138

